

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	丸山 泰子	職名	助教	学位	修士(保健看護学) 川崎医療福祉大学 2011 年
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
老年看護学	認知症ケア 行動-心理症状 (BPSD) 緩和 認知症高齢者の生活機能の維持

研 究 課 題
・ 認知症高齢者の生活機能の維持・改善に効果的なケアのあり方を探求する。

担 当 授 業 科 目
成人・老年看護学演習 (前期) 看護技術論 (前期) 診療関連技術論 (前期) リハビリテーション看護学 (前期) 基礎看護学実習Ⅱ (前期) 老年看護学実習Ⅰ (後期) 老年看護学実習Ⅱ (後期) 老年看護学方法論 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 (前期) 】</p> <p>1. 看護過程 (急性期、慢性期、老年)</p> <p>教員 2 人で 5 グループ (20 名) を担当した。2 年次の看護過程論で学んだことを想起させ、それを土台に疾患を踏まえたアセスメントが学びとして上乗せされるよう意識して関わった。急性期、慢性期、老年期と事例ごとに患者の病期を押さえ、回復の経過を踏まえた展開となるよう指導に努めた。特にアセスメントでは、各パターンで考えるべき視点、疾患のメカニズムを踏まえた分析がなされているかに重点を置き、助言を行った。教員間で学生の理解習得状況を共有し、状況に応じた指導となるように調整した。</p> <p>2. 技術演習 (摂食嚥下障害患者への援助[評価方法, ポジショニング, 食事援助]、片麻痺患者のトイレ援助、血糖測定)</p> <p>事例を読み込み、アセスメントを踏まえての援助実践になっているか確認をしながら手技・ケア方法の確認と指導を行った。また、患者に対し精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているかなど、途中問いかけを行い、学生が自らのケアを振り返り、行動を修正しながら演習できるように配慮した。</p>
<p>授業科目名【 看護技術論 演習 (前期) 】</p> <p>◆ベッドメイキング ◆シーツ交換</p> <p>手順のみを伝えるのではなく、その根拠や入院環境の調整は患者の生活支援の基本であるという認識が強まるよう助言や問いかけに努め、学生間で援助を受ける患者の思いや患者の立場をイメージしながら取り組めるように努めた。また、1 年生初期の演習であり、基本的手順に沿った指導に心がけ、ボディーメカニクス、安全・安楽への配慮、実習室での学生の演習姿勢等に対しても具体的に説明し、注意喚起に心がけた。</p>

授業科目名【 診療関連技術論 演習（前期） 】

◆皮膚・創傷を管理する技術（創傷処置、包帯法など） ◆静脈血採血 ◆与薬・輸血を安全に行う技術

誤薬や手技の失敗は患者の健康被害や苦痛を招く。そのため、演習に集中し、正確な手技で行うことを優先させた。検査を受ける患者の不安や苦痛を学生に想起させながら技術演習を進め、学生の気づきが患者役とのコミュニケーションや、技術を提供する上での配慮につながるよう意識して指導を行った。また、実習室での学生の演習姿勢に対しても具体的説明と注意喚起を行った。

授業科目名【 リハビリテーション看護学 演習（前期） 】

◆運動器リハビリテーション

松葉杖の取り扱いと松葉杖歩行（三点歩行、階段昇降）に関する演習を担当。階段教室にて、実際に段差を使って実施。まずは各自が松葉杖歩行を実践し、松葉杖の正しい使用方法、安全と危険上を理解した上で適切な患者指導ができるように進めた。慣れない松葉杖の使用と松葉杖での階段昇降実施のため、演習実施にあたっては、ふらついた時に咄嗟に支える場所を確認させ、学生同士の手出しもできる状態での実施とし、安全には十分注意した。

授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ（前期） 】

2年生を対象とし、臨床の場で初めて看護過程を展開し生活援助技術の実践を目指す実習である。カルテ情報のみでなく、患者との関わりから学生自身が知り得た情報が分析に活かされているか、情報収集から看護計画立案・実施までの過程を意識して、看護過程の展開ができていないかを確認し、指導を行った。また、既習の知識を随時振り返り、その知識が分析や実践に活用されているか確認し、不足部分は補いながら実習が進むよう関わった。臨床指導者へは学生の進行状況を説明し、臨地指導が円滑に進むよう関わった。

授業科目名【 老年看護学実習Ⅰ（後期） 】

1. 回復期にある高齢者を担当し、高齢者看護を学ぶ。疾患のみでなく、老年期にある患者の生活に目を向け、生活機能を中心に高齢患者の全体像を捉えることができることを重要課題と位置づけ、臨地指導を行った。世代、立場の違いから学生は老年期にある患者の身体や精神面の問題、悩みに気づき辛い。学生が自ら気づけるように問いかけ、既習の老年看護の専門知識と自らの気づきを下に看護過程が展開できるよう指導に心がけた。
2. チーム医療、協働に関する理解が深まるよう臨床指導者と調整をはかり、多職種でのケアカンファレンスなど学びの場を設けた。臨床指導者とは日々学生の実習状況を確認し合い、指導の方向性の統一に心がけた。

授業科目名【 老年看護学実習Ⅱ（後期） 】

1. 介護施設で生活をする高齢者を担当し、健康課題を持ち合わせる高齢者の生活を理解すること、安全で高齢者本人が望む生活の継続に向けた施設支援の在り方を学ぶことを目的とし指導を行った。特に、高齢者と関わりながら生活史をたどることで、施設という場で、高齢者が日々どのような思いで生活しているのか、生活の中で大事にしているものは何なのかなどに関心を向け、捉えることができるよう実践の振り返りを重視した。学生個々の高齢者観が育まれることを意識し関わった。
2. 加齢、疾患によりコミュニケーション能力が低下している高齢者も少なくない。関わりへの振り返りやその時の対象者の思いを想起することを促して、高齢者理解が深まり、高齢者との良好な関係性構築につながるよう助言を行った。

授業科目名【 老年看護学方法論（後期） 】

「高齢者の患者安全」を担当。まずは患者安全を学ぶ意義から始め、高齢者事故の種類や死亡者数等の現状を把握し、高齢者の安全を図ることの重要性が理解できるよう進めた。高齢者看護では欠かせない“転倒転落”、“誤嚥”を中心に、観察ポイント、アセスメントの方法を細かく解説し、療養の場でどのようなことが起こりえるか具体例を含めながら解説した。事例を設け、その中で起こりうることを各自考えさせ、起こったことの対処だけでなく、予測予防の必要性がわかるように授業構成を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本在宅ケア学会 日本看護研究学会 日本老年看護学会 日本看護科学学会 日本認知症ケア学会		2008年7月～現在に至る 2010年3月～現在に至る 2010年5月～現在に至る 2011年6月～現在に至る 2012年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) デイサービスでの BPSD の軽減に関連する 効果的なケアの要因	共	2019年11月 9日(土)	日本看護研究学会 第24回九州・沖縄地 方会学術集会 (於：大分大学医学部 挾間キャンパス)	①デイサービスを利用する中 でBPSDの軽減や生活行動の安 定が見られた事例について、関 わり方を分析し、認知症高齢者 支援の在り方に関し考察する 目的で、デイサービス職員に面 接調査を実施した。“他者との 関りを観察”、“認知症の進行を アセスメント”しながら、利 用者の心身の能力が発揮でき るタイミングを見極め、環境を 作ることが実践されていた。BP SDを発症したとしても、安全の 範囲を見極め、認知症患者が安 全の範囲内で見守られ、能力が 発揮できる関りを実践しよう としている職員の意識と実践 状況が明らかとなった。 ②共同研究者：江上史子、丸山 泰子、櫛直美 ③日本看護研究学会 第24回 九州・沖縄地方会学術集会抄録 集 p38

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
地域在住の女性高齢者における尿失禁の実態	共	2019年11月30日(土)、12月1日(日)	第39回日本看護科学学会学術集会 (於：石川県立音楽堂)	①地域在住の女性高齢者の尿失禁に関する実態を把握することを目的に、市民センターに通う41名の女性高齢者を対象とし、質問紙調査を行った。 $\chi^2$ 検定、Mann-WhitneyU検定を実施。対象の約半数に尿失禁はなく、年齢区分と尿漏れ有無の有意差や、健康質問票スコアとの有意差もなかったが、7割は尿パッドを使用していた。失禁発症の要因は単に年齢のみでなく、活動等諸要因も関連していると考えられる。尿パッド使用も含め、高齢者が安心して活動範囲、機会が得られるような支援の視点を検討し、実施していくことが求められる。 ②吉原悦子、丸山泰子、金子由里、溝部昌子 ③第39回日本看護科学学会学術集会プログラム集 p76

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
特記事項なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
特記事項なし			

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
・ 老いを支える北九州家族の会		2011年5月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

・ 実習コーディネーター      2019年4月 ～ 現在に至る
-----------------------------------